



一中だより

浜田市立第一中学校 校長だより 第8号
令和7年12月19日(金)

〒697-0024 浜田市黒川町3745
TEL 0855-22-0946
FAX 0855-22-0947
E-mail dail@hamada.ed.jp

浜田市立第一中学校HPはこちから
dail.hamada.ed.jp

啐啄同時

校長 川田英樹

今年も早いもので師走のたよりとなりました。季節の移り変わり、時間の流れの早さを感じます。12月22日は「冬至」。1年中で最も太陽の位置が低く、昼間の最も短い日です。この日の風習に「ゆず湯」が江戸時代からあります。江戸の年中行事を紹介する「東都歳時記」では、「冬至 今日 錢湯風呂屋にて柚(ゆず)焚く」との記述があります。「冬至」を湯治にかけ、そして「柚子(ゆず)」を「融通が利く：体が丈夫」にかけ、お風呂屋さんが始めたとされます。師走は、1年間のしめくくり、1日1日を大切に、新年を迎えることを願っています。

12月5日、生徒会立会演説会、投票が行われました。緊張感のある雰囲気の中で、先輩たちが築きあげた伝統のどんなことを引継ぎ、そして今の一中の課題をどう変えていくか、次期生徒会に対する思い、決意を自分の言葉で堂々と語ってくれました。

生徒会担当の水川先生から、新しい生徒会役員に期待することを聞きました。「学校生活の掃除や授業など『当たり前のこと』を大切にし、誰からも信頼される集団であってほしい。そして、これまでの慣習にとらわれず、『よりよい一中にするために何かできないか』という気持ちを忘れずに、チャレンジをしていてください。」

3年生のリーダーシップのもと新たな風を巻き起こした生徒会が、2年生にバトンタッチされる時期がきました。学校を変える原動力は、生徒会役員、そして生徒一人一人です。一中をよりよい学校に発展させていくには、「不易流行」何を残し、何を変えていくのか、みなさん一人一人考えてみてください。みんなの意見を学校運営にも反映させていきたいと思います。

「啐啄同時(そったくどうじ)」という古くからのことばがあります。これは卵の中のヒナ鳥が殻を破ってまさに生れ出ようとする時、卵の殻を内側からヒナがコツコツとつつくことを「啐」、ちょうどその時、親鳥が外から殻をコツコツとつつくことを「啄」といいます。内側からつつくと同時に、外側からもつつくことによって、殻が破れて中からヒナ鳥が出てくるのです。

自分の成長を振り返ると、頑張った自分がいると同時に、家族の方は言うまでもありませんが、必ずそこには応援してくれる仲間や指導してくださった先生方いるはずです。仲間の存在、皆さん一人一人をしっかり見つめ、必要な時に必要な手立てをしてくださる先生方がいることを忘れないでください。

頑張った自分に自信を、そして誇りをもち、1年を締めくくりましょう。



【朝の選挙活動↑】 【立会演説会↓】



コミュニティ・スクールについて

今年度から、本校でコミュニティ・スクール（学校運営協議会制度）が始まりました。これは、「どんな一中生を育てたいか」を学校・保護者・地域で共有し、それぞれの立場で協力しながら、特色ある学校づくりを進めるためのものです。10月には第2回の学校運営協議会を開催しました。本校の特色として、生徒代表である生徒会三役（会長・副会長）の3名にも参加してもらいました。生徒からは、「地域の方々と一緒にゴミ拾い活動をしたい」「料理教室を開きたい」といった、地域と連携した活動のアイデアが出されました。委員の皆様との意見交換でも、「PTA奉仕作業を生徒会と一緒に計画するのはどうだろう？」「地域の料理教室への参加人数を増やす工夫はないか？」など、具体的な協力体制について活発な議論が交わされました。

子どもが主体の活動を充実させるには、子どもと地域、保護者が対話できる場が重要です。学校運営協議会はその重要な機会の一つです。さまざまな場で、子どもと地域が連携し、一中らしい活動を共につくり上げていけるよう、引き続きご理解とご協力をお願いいたします。

（教頭 品川）



生徒指導の窓

11月11日(火)、体育館でPTA生活部メディア研修会「ネット安全教室」が開催されました。島根県警察本部 浜田少年サポートセンター 山藤 靖礼 様を講師に迎え、スマホやタブレットの中にある重要な情報を他の人に見られないようにするために設定すべきこと、SNSでの被害を防ぐために気をつけることなど、一つ一つわかりやすく教えていただきました。

～生徒の感想より～

私たちが毎日使うスマートフォンには楽しいことがあるけれど、それと同じくらい自分にとって危険なことが数えきれないほどあることを知った。(1年) / 間違った使い方をすると犯罪になったり、最悪な場合には逮捕されたりすることが分かった。(1年) / 自分の携帯には、自分の情報だけでなく友達や家族の情報も入っていることが思い出せたので、写真や会話アプリの扱い方を考えたい。(1年) / フィルタリングがあると不便なのでいらないと思っていたが、お話を聞き自分の身やスマホ、データを守るために必要だということを学んだ。(2年) / スマホ一つで人生が変わることもあることを知った。それを踏まえて今後は少しのことにも気を使いながら正しく使いたい。(2年) / 最近、闇バイトや詐欺という言葉をよく耳にするけど、スマホを使うことでそういう危険に触れる可能性があるということに驚いた。(2年) / ネットにはいろんな人がいるので、ネットとの関わり方に気を付けて安全に使いたい。(3年) / 自分にとっては小さなことでも、相手の捉え方によってその言葉の意味や重みが変わるので、これからは自分でよく考えてから発言したい。

(3年) / もう少し成長して一人で生きていかないとけなくなった時の、「お金がほしいから」「断りにくいから」などの理由で犯罪を犯して人生が無駄になることはしたくないから、危ないか危なくないかの判断を自分でして生きていきたい。(3年)

（生徒指導主事 段）



浜田市のコンクールで入賞！

浜田市では、毎年「浜田市人権作品コンクール」を開催しています。このコンクールは、浜田市における人権意識の高揚と啓発のために開催されており、中学生ならではの感性で、その気づきや心の動きを素直に表現した作品を数多く寄せられています。このたび作文部門で、1年3組の内藤暖乃さん（題名：「命の大切さ」）が最優秀賞、2年4組の山本康介さん（題名：「血液型による差別」）が優秀賞を受賞しました。

また、身近な疑問や不思議に思うことや興味があることなど、自由なテーマについて、学校図書館や公共の図書館の本を使いながら調べてまとめる「第12回浜田市図書館を使った調べる学習コンクール」で、1年3組の内藤暖乃さん（作品タイトル：「視力って回復する？」）、3年3組の椋松竜之介さん（作品タイトル：「Know More! 北方領土」）がそれぞれ優秀賞を受賞し、全国コンクールに出品されることになりました。

